



学校だより

和歌山市立四箇郷小学校

平成30(2018)年度:No.55

3月号文責/校長:上田 仁

いやな季節…

とは言っても、花粉のことではありません。3月はお別れの季節だからです。「6年生を送る集会」で、職員の歌の発表の際、6年担任が声をかけたときに、すでにうるうるなっている子を見かけました。まったく担任冥利に尽きる風景でしたね。もちろん5年生までの担任も、卒業していく姿を見ながら様々な思いが去来していたことでしょう。



先日、紀之川中学校の卒業式にお招きいただき、目と耳をフルに使ってワクワクしながら座っていました。これは、彼ら彼女らの小学校時代を知る者の特権かもしれません。一目見ただけでわかった子、面影が残っている子、呼名されて思い出した子…と、顔を眺めながら懐かしさにひたるひと時でした。卒業式シーズンにぴったりの、言い換えればしっくりする、あるいはお似合いの、もっ

と言え思い出の曲って何でしょう。紀之川中学校では「仰げば尊し」も歌っており、逆に自分としては新鮮な感じがしました。「蛍の光」もそうですが、歌詞の意味がよくわからなくても、歌っているとジーンとしてくるのは、やはりひとつの条件反射なのではないでしょうか。最近よく歌われている「旅立ちの日に」は、1990年代に中学校の校長と音楽の担当が、一緒に作ったものだと言ったことがあります。6年生が歌っているのを聴くと、本当に名曲だと、それも歌詞も含めて心に染み入る曲だと思います。しかし、こんなに知られているものが、一(いち)学校の教員が作ったとは驚きですね。



小学校や中学校、高等学校の卒業式へのお家の方の思いや印象は、微妙に異なるのでしょうか。何と云っても小学校は6年のスパンがあるので、とにかくお子様の成長の度合いが違います。「よくぞここまで大きくなった」という言葉がぴったりかもしれません。3月はいやな季節、お別れの季節です。でも、こんなに長い6年間を経て、心身ともに元気に卒業していくことを考えると、3月はすばらしい季節かもしれません。

